

山行報告書

山行管理部

公開山行 瓢箪崩れ山 6月24日

L 伊東・谷村・森(幾)・友田(桂) 参加51名(内一般なし)

京阪・京橋駅 8:07 発(特急) → 出町柳駅 8:57 着・・・叡山・出町柳駅 9:15 発 → 岩倉駅 9:24 着・・・登山口 10:05・・・八瀬分岐 11:10・・・瓢箪崩れ山 11:45 昼食
山頂 13:10 発・・・寒谷峠 13:30・・・聖護院門跡 14:10・・・飛驒池・・・中町児童公園
14:40・・・岩倉駅 15:10 着 解散

梅雨の蒸し暑さに加えて、日差しのきつい日だった。岩倉駅から京風の住宅街を抜けると林道に入った。先ほどの蒸し熱さが、急に涼しさが変わる。登山道は少し急な登りから始まった。それを登りきると山頂までゆっくりとした樹林帯の道である。樹林のおかげで、山全体が涼しさのベールに覆われたようだ。山頂からは、横高山、右に比叡山が見え、眼下には八瀬の集落があった。山頂は狭い場所ではあったが、他の登山者もなくゆっくりできた。山の折り返し点の寒谷峠へは、急坂を下るとすぐだが、台風の影響で倒木が多く、歩きにくい。続く、岩倉林道は植林地の中、静かな山道を下り岩倉駅に向かった。

最後に、今回の事故対応に当たって頂いた児玉・小林・宮田さんには、大変ご苦勞をおかけしました。お礼申し上げます。(伊東 記)

ウィークデイ 松尾山・矢田山 6月26日 CL 高村、S 杉谷 参加15名
天王寺駅(大和路快速) 8:20 発 → 8:45 法隆寺駅着 9:00～9:20 法隆寺東門(体操・ミーティング)～斑鳩神社～11:10 松尾山～国見展望台～12:30 矢田山頂上展望(昼食休憩)～東明寺～14:20 矢田寺(解散)

梅雨で前日まで雨でしたが、当日は曇り空で昼から晴れの山行でした。松尾山登山口から松尾寺、1丁から9丁まで石の道標があり、暑い中で登りの疲れを和らげました。暑い中水分補給休憩を多くとりながら、雨に遭うことなく全員無事に下山出来て、本当に良かったです。参加者の皆さんのおかげです。最後に矢田寺では紫陽花が色とりどりに咲き、バスの時間まで過ごしました。

とりあえず、近場の山を楽しみたいと思っておりますので、よろしくお願ひします
(高村 記)

教育部 初歩の岩登り講習 7月1日 CL高桑 参加7名
阪急宝塚バス停 08:00 → 蓬萊峡 09:00 → 小屏風岩 大屏風岩 15:00
→阪急宝塚駅 16:30 解散

6/10 予定の同講習を雨天中止にしましたがスタッフの確保と好天が見込まれるので急遽、中止した当日に申し込みのあった新入会員の4名に声掛けをして実施をしました。梅雨の最中の影響か岩場も空いており小屏風は貸切状態。スラブは他会が登り降の練習を長いこと熱心に反復練習をしていた。

午後には空いていることもあり大屏風にもチャレンジして参加者全員が満足顔で岩登り講習を終えた。
(高桑 記)

ウイークデイ 勝竜寺城址とサントリー工場見学 7月4日

L山田 参加11名

長岡天神 10:30 → 天満宮八条池 → バンビオ 11:30(昼食) → ふれあい町家 12:45 → 勝竜寺城公園 13:30 → 恵解山古墳 13:45 → サントリービール工場 14:00

日本海海上を北上中の台風7号が正午頃関西地方最接近するとの予報で、実施か否か、ぎりぎりまで判断を迷したが、ウエザーニュースの時間毎予報では風は弱く雨も行動予定の時間帯は1~2ミリ/時とのことで8時前に実施と決断した。長岡京市では雨は前夜来降っていなかった。しかし、参加予定の皆さんは自宅を出発される時、実施の有無に随分不安を抱きながらの参加だったろうと反省しきりです。集合時には小雨が降りだし、駅から長岡天神 八条池散策の1時間は雨で傘が必要でしたが、その後解散する16時まで風は微弱で雨は降らなかった。細川忠興・ガラシャが新婚時代を過ごした勝竜寺城公園を散策し、恵解山古墳に登頂?。最後にビールをいただき定刻に解散できた。市街地の郊外で危険個所もない経路であったことから実施してよかったと考えている。
(山田(仁) 記)

有志山行 オーストリアチロル 6月28日~7月5日

L島田 (参加9名)

6/28(木) インスブルック着

6/29(金) レッヒ→オーバーレッヒ (歩行時間3時間)

6/30(土) バアルーガ→ガルツィッヒ→サンクアントン (歩行時間3時間)

7/1(日) マイアーホーフェン→ペンケルバーン→ペンケンヨッホハウス
(歩行時間3時間)

7/2(月) キッツビュール→アルプス植物園→アルペンハウス

→ザルツブルク (歩行時間3時間)

7/ 3(火) ザルツブルク観光

7/ 4(水) ~ 7/ 5(木) 帰国 (関西空港)

快晴に恵まれたチロルでは、高山植物の多さに感動しました。
牧草を食む羊や牛の群れなど、のどかな風景のチロルハイキングを楽しむことができ心も身体もリフレッシュすることができました。

(島田 記)